

沖縄ベンチャースタジアム

<http://ovs.jp>



P.02 特集

沖縄コンテンツ・ビジネス最前線

県内クリエイターの躍進と
その活動を支える人々

P.07
ちゅ
美らさん
インタビュー

オリオン・サザンスター
イメージキャラクター

Manamiさん

沖縄を離れていつも思う事は、沖縄に対する感謝の気持ち。
この場所があるから今の自分があると、心から実感します。

[CONTENTS]

P.04	オビニオンリーダーに聞く	沖縄県信用保証協会 会長 仲里全輝さん
P.05	海外レポート from 台北	台北国際食品見本市大盛況!
P.06	経営者は語る	(株)健食沖縄 代表取締役社長 平良範子さん
P.07	発見!ご当地ヒット商品	第一回 国頭村 クニガミドーナツ
P.08	元気企業紹介	(株)パシフィック・ホスピタリティー・グループ 島すば
P.10	トピックス	OKINAWA 型産業応援ファンド事業報告会
P.11	OVS ニュース	

発行:(財)沖縄県産業振興公社
〒901-0152 沖縄県那覇市小禄1831-1
TEL 098-859-6237
<http://www.okinawa-ric.jp/>



QRコードから、
公社の携帯用
HPの情報を入
手できます。

Feature — 特集

沖縄コンテンツ・ビジネス最前線

県内クリエイターの躍進とその活動を支える人々

県や市町村の支援・育成のもと、国内外を視野に入れたクリエイティブ活動の若い担い手たちの活躍が目立っている。彼らの思いや目指すものから、沖縄県のコンテンツ・ビジネスの展望を探る。

BUDDOGは

世界に挑戦する

— DOKUTOKU460 —

BUDDOGという名の、犬のキャラクターが注目を集めている。四角い身体、なんだかふてくされた表情の犬だ。そのBUDDOGの生みの親が、「DOKUTOKU460」というコンテンツ制作事務所を主宰する城間英樹さん。城間さんが

BUDDOGを着想したのは、東京の大手ゲーム会社でキャラクターデザイナーとして働いていた頃。だが会社勤めをしていた間は、発表の機会もなく、BUDDOGは、ただ紙の上だけの存在だった。

ところが、独立後、状況が一変する。「世界中のアーティストが発表する、東京のアジアデザイン・フェスタに出品したら、海外の雑誌に世界の32人のデザイナーの1人として取り上げられたのです。さら

に海外を含めて、数社から商品化のオファーがありました」と城間さん。一年ほどして商品が完成、現在BUDDOGは、国内外の複数社とライセンス契約を結び商品化されている（現在準備中も含む）。

そのプロモーション活動について、「県外・国外で営業できるようなセルフプロデュースが重要。東京で積極的に人間関係づくりをしてきたことが、独立以降、大変助けになりました」と城間さん。「ヒューマンスキルがないと、チャンスが活かせない。人と人のつながりで、仕事が発生することも多いですから」。

DOKUTOKU460で働くスタッフも、城間さんの人間的つながりと仕事ぶりに魅せられて集まった人ばかりだというが、一緒に夢を見る仲間だからこそ、仕事への要求も高く厳しい。「仕事のクオリティが高いのは、当たり前。プロとしてやっていくためには、スピードが必要です。どうやって効率を上げるか。またプロとしての視点の置き方、何を指すかも重要です。低い山をゴールに選ぶのか、それとも高い山か。スタッフミーティングでは、全員で『世界を目指すぞー』と、勢いをつけています。現在、「バナパ（仮）」というオリジナルアニメの世界配給を目指し、鋭意制作中だという。そのほかにも、新しいキャラクターが続々と生まれている。BUDDOGの活躍とともに、DOKUTOKU460の大きな夢は、着実に実現しつつある。



(上) 城間さん(一番奥)とスタッフの皆さん
(下右) 新しいキャラクターのイヌコ
(下左) カラフルなバリエーションが楽しいBUDDOGたち

HIGA Bros.Productions

[比嘉ブラザーズ・プロダクション]

比嘉 一哲さん・比嘉 之典さん

Kazutetsu Higa & Yukinori Higa

☎ 090-9780-1749 , 090-3790-9168
HP <http://www.higabros.com/>

(右) 9年の歳月をかけ、二人で作った人形アニメ映画「鉄の子カナヒル」
(左) トリぶるマヤ〜のキャラクター



本格的にキャラクター
ビジネスに乗り出したい

— 比嘉ブラザーズ —

ハリウッドの特撮スタジオで造形の第一級技術を磨き、現在は地元沖縄で活躍する比嘉一哲、之典の双子の兄弟「比嘉ブラザーズ」。県内では「おきなわのホームソング」の人形アニメーションや、「オキナワノコワイハナシ」で特殊メイクを担当した実績をもつ。華々しい経歴をも

—— クリエイターたちが、街に飛び出した! ——

沖縄クリエイターズビレッジ ☎ 098-934-3076 <http://www.oc-village.com/>

沖縄クリエイターズビレッジは、沖縄市の一番街を拠点に、周辺の空き店舗を様々なジャンルのクリエイターたちの創作拠点として活用することで、作品の発表の場づくりを行うとともに、その販売活動に対する支援を行っている。

このクリエイターズビレッジを運営しているのが、マネージャーでオフィス・ブラット代表の秋友かんなんさん。

「もともと北谷町で、クリエイターさんたちの交流拠点としてカラースハウスを運営していたのですが、その活動を街全体に広げたいと、2008年に、沖縄市に移りました」。秋友さんは、商店街の人々と日々触れ合っ中、自然に空き店舗問題に取り組み始め、カラースハウスを訪ねるクリエイターたちと、商店街を活性化させる役割を担い始めた。その活動が今、クリエイターズビレッジとして街全体を巻き込んだ動きとして成長している。

街に飛び出したクリエイターたちの表現活動が、人を集め、賑わいをもたらし、その賑わいがまた人を呼ぶ。さらにクリエイターが集まっ

て街で創作活動を行うことで、メディアやクライアントの目に触れやすくなり、クリエイターたちのビジネスチャンスを作りだす。

こうした活動が奏功して、少しずつだが、空き店舗が埋まり街に活気が戻っていると話すのは、雇用面で秋友さんたちの活動を支援する沖縄市雇用促進・企業誘致推進課の普久原朝章さんと大山孝子さん。今後は新たな産業の創出という面でも継続的な支援で街全体の再活性化に取り組んでいきたい、と話していた。



沖縄クリエイターズビレッジが昨年一年間を通して行ったイベント「Kozza DessART」の様子

つ2人を、ふるさと沖縄に拠点を移そうと決まっていたのが、沖縄を代表する版画家、儀間比呂志さんの絵本「鉄の子カナヒル」との出逢いだ。

「これを人形アニメ映画にしたい」という夢を抱き、99年二人は帰沖。9年かけて、人形アニメ映画「鉄の子カナヒル」を完成。県内各地で上映会を開催した。

この上映をきっかけに、県内放送局や広告代理店から、アニメーション制作や特撮の依頼が入り、多忙な日々を送るようになる。「今後は、職人として活動するだけでなく、『比嘉ブラザーズ』という制作プロダクションを、事業として成立させたい。そのためにビジネスモデルの構築を模索中です」。その模索の中、沖縄県産業振興公社が実施する平成22年度ベン

チャー育成連携事業の支援を受け、「トリふるマヤ〜」のキャラクターが誕生した。「ガチマヤ〜」、「クスマヤ〜」、「カジマヤ〜」という名の3匹の猫が活躍するウチナー猫漫画を、ネットで配信すると同時に、シルやTシャツなどのグッズ展開を仕掛ける。

「沖縄産業まつりにトリふるマヤ〜を出展したときの経験が、今後のビジネス展開の参考になりました」。今後は、アメリカはもちろん東南アジアへの進出も視野に入れている。既に台湾では人形アニメーションの映画祭にも出展し、活躍の幅は広がっている。「今後はプロダクションとしてスタッフを雇用して、ビジネスを広げながら沖縄の人材育成にも貢献したい」と語った。

若い感性で 伝統文化を活性化する

I FUNNY STYLE I

昔ながらの三線製作の世界に新風を吹き込んでいるのが、FUNNY STYLE 代表の新里玲王奈さん。新里さんが取り組んでいるのが、三線のチーガ(胴)をキャンバスに見立て、カラフルなデザインを施したデザイン三線というシリーズ商品だ。デザインモチーフは、鳳凰やデイゴなどの伝統的な図案や、金地にヤンバルクイナのシルエットをちりばめたもの、BUDOGなど県内デザイナーのキャラクターを採用したものなど、バリエーションも豊富だ。

「伝統を忠実に守り、技術を継承している職人の方々の意見も尊重しつつ、デザインで時代やニーズに合わせて市場開拓し、三線文化の継承、発展に貢献できれば」と新里さん。

新里さんはアメリカ

留学中にアイデンティティに目覚め、三線が自分と沖縄とを繋ぐ心の楽器だった。「沖縄を離れて、沖縄の文化の素晴らしさを知り、沖縄のために何かしたいと思うた」。沖縄の心を大切にしながら、沖縄の今を表現したい。そこで「沖縄のデザイナーさんたちに、チーガ(胴)のデザインをしてもらおう。これなら、伝統文化を大切にしながら、デザイナーの活躍の場が作れるのではないか」と考えた。

デザイン三線を発売後、デザインによっ

FUNNY STYLE

【ファニースタイル】

代表: 新里 玲王奈さん Reona Shinzato

☎ 080-1726-8674

HP <http://design34.net/> Blog <http://funnystyle.ti-da.net/>



デザイナーの個性があふれるデザイン三線のラインアップ

て売れ方が違うことを実感したと新里さん。お客様のニーズを汲み取ることができ、デザイナーの作品が売れているという。新里さんは「デザイナーさんたちと連携して、共に活躍、発展して、沖縄が少しでも元気になれたらうれしいです」と話す。

沖縄でも一流のデザイナーは沢山いると城間さんはいう。インターネットを通して、世界中とビジネスができる、と考えるのは比嘉ブラザーズ。インターネットを活用して、伝統工芸の新たな市場にチャレンジする新里さん。斬新なアイデアと県外で培った視野の広さを武器に、県境や国境を越え新たな挑戦を続ける彼らの活動に、沖縄県が力を入れているコンテンツ・ビジネスの大きな可能性が見えてきた。

オピニオン リーダー に聞く

沖縄県信用保証協会 会長
仲里全輝さん

——今年、8月3日に創立50周年を迎えられるとのこと、おめでとうございます。

ありがとうございます。当協会が設立されたのが、昭和36年。琉球政府時代に、社団法人としてスタートしました。それから50年、県経済界、県や関係当局、そしてなにより中小企業の皆様、県民の皆様に支えられて今日を迎えることができました。

50年の節目でもあり、今年の創立記念日には関係の方々にお集まりいただき、記念祝賀会を大きく開催したいと思っています。3月11日に東日本大震災が起き、東北ではいまだたくさんの方々が困難な状況に置かれているとのこと、役員で話し合っていて、大規模な祝賀会はやめて、そのための予算を義援金として役立てることを考えています。

——これまでの50年を振り返って、協会が県経済に果たしてきた役割とはどんなことでしょうか。

保証協会の役割は、中小企業の皆様が金融機関から資金を借り入れる際に、その債務を保証することで、中小企業の皆様の資金繰りを円滑にしていけることにあります。日本の信用保証制度は昭和28年に信用保証協会法に基づいて創設されましたが、当協会設立当初は復帰前で、信用保証制度の中にあいりませんでした。そのため、県経済界の皆様から募った資金で運用したこともあって財政基盤が十分ではなく、思うように中小企業の皆様の

きめ細かなコミュニケーションと経営支援機能の強化で、 県内中小企業を積極的にバックアップ。 中小企業の立場に立ち、正確・迅速なサービスを提供！



なかざと・ぜんき 昭和11年7月23日生まれ。昭和34年、琉球政府法務局法制課採用。その後、沖縄県観光振興局長、沖縄県企画開発部長等を歴任。那覇空港ビルディング株式会社専務取締役、那覇商工会議所専務理事を経て、平成18年に沖縄県副知事就任。平成22年5月より現職。

支えになることができない状況にありま

した。
私たち保証協会が十分なサービスを行うためには、債務保証に対する再保険がどうしても必要です。この制度が当時は無かった。そうすると万が一、融資を受けた企業が債務不履行になった場合、当協会が代位弁済を行わなければならない。ところが、当時の財政規模では、債務不履行が起きてしまうと、当協会の経営に少なからぬ影響があるわけで、どうしても、満足のいくサービスを行うことができなかった。

その後、復帰を迎えて、全国の信用補完制度の中に入ったわけですが、これにより、日本政策金融公庫の保険契約を結べることになりました。
現在の当協会の保証残高は、2003億円ありますが、これは復帰当時の約110倍です。基本財産も116億円となり、県内中小企業の皆様の資金繰りを支えることができるようになりました。復帰以降、県経済が大きく発展してきたのは、県民の皆様、県内企業の皆様の努力があったのですが、当協会として、こうした県民の皆様のためには努力に對する下支えも、少しはできたのではないかと思います。

——現在の状況についてどのように見えていますか。

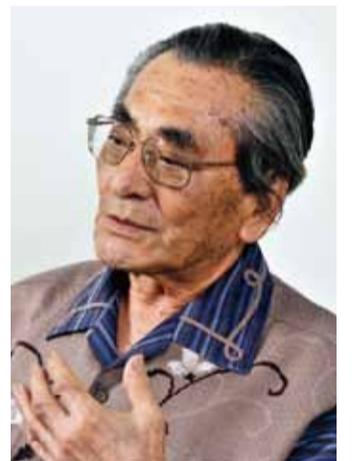
県経済は、総じて厳しい状況にあります。東日本大震災以後、例えば観光業界では、キャンセルが相次ぐなど、9・11の同時多発テロの時期を上回る影響を受けているようです。また、建設業界では全体として上含みで推移していますが、今後東日本復興に伴う建築資材の高騰や、復興予算確保の影響で公共予算の縮小が予想されることなど、心配な要素もあります。

——こうした状況の中、協会には、どんな役割が求められているとお考えでしょうか。

中小企業は地域活力の源泉だといわれます。特に沖縄県では、県内企業の99%が中小企業です。中小企業を大事に育て、発展させていくことが、必ず沖縄の発展に結びつくと考えています。

当協会も、県内中小企業の皆様の経営基盤の強化を積極的に支援していくべきだと考えています。中小企業の継続・発展は、雇用の維持や、国や公共団体の税収入を支え、また、失業対策のための財政負担を軽減し、さらにGDPを支えるなど、きわめて大きな意味があります。中小企業の皆様の、資金面からバックアップする信用保証制度が果たす社会的・経済的意義は、沖縄にとって計り知れないものがあります。私たちは、役員とともに、この責任を強く自覚して、日々の業務に取り組んでいきます。

県内企業のおかれた厳しい状況下、条件変更や返済事故が増加傾向にある中で、私たちは、一社一社の経営を良く見極める必要があります。経営理念、技術力、



海外 REPORT from 台北

台北国際食品見本市大盛況！

産業振興公社では、県内企業の海外進出支援や本県情報の発信、海外情報収集のため、台北・上海・香港・台湾に海外事務所を設置するほか、アンテナショップを運営しています。現地から沖縄関連の最新事情をお届けします。



海外市場への販売拡大を目指して、自社製品をアピール

6月22日から25日の4日間、2011年台北国際食品見本市(フード台北)が台北世界貿易センター南港ホールで開催され、28の国と地域、830業者が1780のブースに出展し、多くの海外バイヤーや台湾の一般参観者が来場しました。

沖縄からは県別で最多出店となる9企

業・団体が、代理店獲得や販路拡大を指して健康食品、泡盛などを出展し、台北事務所は、地元バイヤーへの事前の 프로모ーション活動や、当日のブース運営をサポートしました。

沖縄ブースでは、台湾で圧倒的な認知度のある黒糖をはじめ、泡盛、健康食品等が人気を集めました。

見本市2日目の23日には、地元ホテルの協力で安全で美味しい沖縄県産の食材を用いた創作台湾料理と泡盛の夕食を試食してもらいながら、フード台北出展企業の販路開拓を目的とした「沖縄美食商談会」を開催し、51社の地元バイヤーとのマッチングを行いました。商談会では、調味料として使用された黒糖や塩に興味を示すバイヤーが多く見られました。

また、25日と26日には、歴史的スポットである四南村内のカフェ「好・丘」で、



沖縄県信用保証協会が設立25周年を記念して制定した協会は

将来性について、目利きする力が求められていると思っています。企業の皆様と、きめ細かくコミュニケーションをとり、タイミングを失することなく、必要なアドバイスをしていくためには、当協会だけではなく、県内各金融機関や商工団体などとも緊密な連携をとっていく必要があります。

それと同時に、企業の皆様にも、経営基盤の強化を積極的に図ってほしいと思います。自己資本比率の強化、収益性の強化、労働生産性の向上はいうまでもなく、従業員とその家族に対する責任、関係取引先とその従業員に対する責任を自覚し

て、経営者として企業の社会的使命を強く認識していただくことが、企業の発展を支える大きな力になると思います。従業員が生き生きと働ける会社づくりに積極的に取り組んでいただきたいと思います。

そして、ぜひ、企業の皆さんには、県外だけではなく、国外にも目を向けてほしい。沖縄の置かれた地理的優位性をぜひ、活かしてほしいと思います。

— 今後について、どのような展望を抱いていますか？ —

県経済は依然厳しい状況ではありませんが、震災の影響をまともに受けた観光業で

地元企業の協力を得て、「海でつなぐ台湾」沖繩の食文化」をテーマに、沖繩の食文化のほか、物産、観光、音楽、写真を紹介するイベントを開催しました。

「好・丘」での展示会では、食の安心安全PRのため沖縄料理の実演、若手クリエイターが沖縄食材を用いて開発した商品などの販売を行いました。泡盛カクテルやオリオンビールなどの売れ行きが上々で、台湾と沖縄を結ぶ意味を含めた沖縄食材を使用したおむすびなども好評でした。また、食品以外では県産のウーツ染めの商品や化粧品、三線、パーラソクなど販売。最終日は沖縄音楽のライブや台湾でも人気があるオレンジレンジの握手会などで盛り上がり、台湾・沖縄との交流を深めるイベントとなりました。

当事務所では、今後も沖縄・台湾とのビジネス交流の拡大に取り組みで参ります。

お気軽にご連絡ください。

【台北事務所への連絡先】

info@okinawa.org.tw

県産食材を使った試食会や、沖縄音楽のライブも盛り上がりを見せた。



は、ゴールデンウィークの入域客に若干持ち直しが見られ、県知事の国内外へのトップセールスも着実に好影響を与えています。また、観光業以外では、今回の大震災を受けて、県内へのデータセンター設置の動きも大きくなるでしょうし、県と全日空が連携した那覇空港の貨物ハブ化構想が具体的な成果を見せるなど、将来楽しみな動きもあり、必ずしも、悲観材料ばかりではありません。沖縄県の経済の伸展のためには、県はもちろん、企業の皆様の継続的な努力が大事になってくると思います。

— 本日は、どうもありがとうございました。 —

経営者は語る

株式会社 健食沖縄 代表取締役社長 平良範子さん

たくさんの方に支えられて、今がある。
全ては、人と人とのつながりから。

● 沖縄の良いものを、
たくさんの人に知ってほしい。

健食沖縄は、沖縄の健康食品を中心に県産食材や沖縄コスメなどバリエーション豊かな県産品を県内外に卸す他、直営店での販売や各地で開催される物産展での展示販売、楽天のネットショップやコーネルセンターでの直売など、様々なチャンネルで全国の多くのファンに届けている。しかし、健食沖縄の特徴は、その取り扱い品目の多様さだけにあるのではない。健食沖縄の代表取締役社長、平良範子さんはこう話す。

「私たちの仕事は、沖縄の良いものを掘り起こして、県内外のできるだけたくさんの方々を知ってもらうこと。そのためには、その商品のことを深く知って納得したいんです。ああ、こんなふうな一生懸命作られているんだなって。」

だから商品を取り扱う際には、実際に生産者のもとを訪れ、商品の良さ・特徴だけでなく、製造工程や供給力まで深く調べるといふ。そして、どうすれば、その商品の魅力を引き出せるか、生産者と一緒になって考えるのだそう。

「いい商品だから、ということだけでは不十分ですね。大事なものは、その商品の魅力を、消費者の立場になって考え、表現すること。作る側と売る側、そして求める側が一体にならないと、商品は売れない。そういう思いがあるからこそ、可能な限り、商品開発の段階から積極的に関わることだ。」

● 人と人とのつながりが、会社を育てる。

平良さんに、「この仕事でやっていける、と感じた瞬間はいつですか」と、伺った。すると、「特に、不安を感じたことは無いんです。いつもタイムシグよく沖縄プー、健康食品プーに乗ることができて、周囲に恵まれていたんでしょね」と、話す姿勢はあくまでも謙虚だ。

「いい商品。納得のいく商品を求め続けていただけなんです。そして、人と人とのつながりを大切にしてきた。ただそれだけ。」

創業当初、卸が中心だった頃もそうだった。自ら販売店をまわり、担当者一人ひとりと丁寧に話す。その反応を見て、「あ、この商品は売れる」という手ごたえを感じていった。売り手を通じて、少しでも消費者の声を聞き取ろうとしていたのだ。

ネットショップを始めたきっかけも消費者の声を聞き、応募するためだった。「物産展や小売店でお買い求めいただいたお客様から、いろいろな問い合わせをいただくんですね。そうした声にお応えするために、ネットを使うといいんじゃないか」と平良さん。そして「売る側と求める側の心と心が繋がっていないと、安心して買ってもらえないですから」と話す。

現在、ネットショップとコールセンターで構成される通販事業部は、一億円の売り上げを目標にするまでに成長している。「webという限られたスペースや、電話を通じて会話だけのやりとりで、商品の良さをどうやって伝えるか、お客様に魅

力をどうやって伝えるか、難しいですが、そこがまた楽しい」と話す。

● 沖縄の、昔からのいいものを全国に。

沖縄の良いものを掘り起こして、県内外の多くの人びとに伝える。平良さんの仕事は、この一点を見据えている。「沖縄に言い伝えられてきた、昔ながらのいいものを全国に広めたい。沖縄という土地が育んだ、身体にいいものを、できるだけたくさんの人びとに伝えたい」、これが平良さんの願いだ。

平良さんに、今後取り組みたいことについて伺った。

それは、沖縄の食材を使った商品を、主婦の皆さんと一緒に作ること。「家庭の健康を預かる主婦の皆さんが安心して使っていただけるよう、沖縄の食材を使った商品にこだわっていききたいですね。」

沖縄の良いもの、昔ながらの知恵を広げていく。常に、原点を見つめる平良さんの経営姿勢が、そこにある。



たいら・のりこ 1948年本部町生まれ。高校卒業後に沖縄三洋電機株式会社に入社。結婚を機に退職し、しばらく育児に専念していたが、同郷の先輩の会社で製造した健康食品の販売を手がけることをきっかけに、健食沖縄を創業。2011年2月自社ビルを竣工。現在に至る。



所在地: 〒900-0025
那覇市壺川12-2-9
電話番号: 098-853-6689
創業: 平成11年4月1日
会社設立: 平成12年3月1日
事業内容: 健康食品卸、小売販売、通信販売
自社サイト: <http://www.ganju.jp/>
楽天通販サイト: <http://www.rakuten.ne.jp/gold/ken-oki/>

表紙の人 美らさんインタビュー

沖縄を離れていつも思う事は、
沖縄に対する感謝の気持ち。
この場所があるから今の自分があると、
心から実感します。

爽やかな夏をイメージさせるブルーを背景に、伸びやかな歌声が響く。オリオン・サザンスターのイメージキャラクターとして活躍するManamiさんだ。

那覇市出身のManamiさんは、小学校の時に親元を離れて上京。中学校時代から音楽の魅力にとりつかれ、大学一年の頃には歌手になろうと心に決めていた。そして念願の歌手デビュー。きっかけは2008年の22歳の時に、オーディションでグランプリをとったこと。その後、2010年には自身が作詞した「遠い記憶」が、映画「武士の家計簿」イメージソングとして採用され、また同年6月に、デビューシングル「Yellow Stop」をリリース。さらにセカンド・シングル「Miss Little Voice」がオリオン・サザンスターのイメージソングとして採用された。

「CMソングに採用されて以来、沖縄でのライブ活動が多くなりました。まず私の故郷である沖縄の人々に私の音楽を届けたい。それは東京で仕事する私の中に常にあった願いでした」とManamiさん。さらに作曲する上での原点は沖縄だと話す。自然や島の人々の温かさを思い出しながら、愛情をもって曲の制作に取り組むのが彼女のスタイル。「6月の末にリリースされた沖縄限定シングル『ベストフレンド』にも沖縄への思いがこもっています」と話す。

「沖縄を離れていつも思う事は、沖縄に対する感謝の気持ち。特に東京から沖縄に帰ってくると、ただ道を歩いているだけでも幸せなんです。忙しく生活する自分にとって沖縄に住んでいた幼い時の記憶は宝物です。この場所があるから今の自分があると、心から実感します」と話す。そして「今年の夏はオリオンビアフェストを始め、たくさんのライブに参加する予定です。是非みなさんと一緒に楽しい時間を過ごしたいです」と笑顔が弾けた。

オリオン・サザンスター
イメージキャラクター

Manami

まなみ 那覇市出身。2008年ファレル・ウィリアムスとNIGO*が開催した『STAR BAPERSEARCH』でグランプリを受賞。世界23カ国同時配信デビューが話題となった。2010年6月「Yellow Stop」でグランデビュー。沖縄での初のライブツアーがきっかけとなり、「Miss Little Voice」がオリオン・サザンスター CMソングに抜擢された。新曲「ベストフレンド」で新CMにも出演中。
<http://www.manami.tv/>



ヒット商品から学ぶ
目からウロコの開発ヒント



「クニガミドーナツ」



基本の味はプレーンとチョコレート。タンカン果汁やからぎを練り込んだ商品も。値段は120円。グレースのかかったものは150円。旬の果実をつかった商品は季節限定で販売される。

第1回 国頭村

発見! ご当地 ヒット商品

その名もずばり「クニガミドーナツ」。国頭村でしか売られていない地域限定のご当地スイーツだ。保存料や卵、牛乳、動物性油脂を一切使わず、国産小麦と伊豆乳、県産タピオカなど、素材にこだわった手作りのドーナツで、季節に応じて、パイナップルやタンカンなど地元特産の果実を練りこんでいる。このクニガミドーナツが、口コミやブログを通じて徐々に人気を集めている。

人気の理由について、国頭村観光アド

バイザーの宮城桃子さんはこう話す。「地元の味を、子供たちに是非食べてもらいたいと思いついてこの間まで時々、村の学校給食に登場していたんです。それを食べて気に入ってくれた子供たちが親を連れて販売店を訪れ、地元のサポーターづくりにつながりました。それに加えて、包装紙にプリントされた、ドーナツを分け合う二羽のヤンバルクイナのロゴデザインも好評で、店頭でカワイイと手に取る人も多いです」。

地元特産の果実を活用した商品で国頭の魅力をもっと知ってもらいたいという思いが開発のきっかけだが、「真の目的は、ヤンバルの活性化。ドーナツは、国頭村に興味を持ってもらうひとつの手段なのです」と宮城さんはいふ。実際に、ドーナツをきっかけに、国頭に足を運ぶ人は増えているそうだ。

また、売上の一部はヤンバルクイナの保護活動に寄付されているという。クニガミドーナツは、ヤンバルの自然保護と経済活性化に一役買っている。

HIT! POINT!

- ① 年齢、男女問わず馴染みのあるお菓子を選択
ドーナツは決して新しい食べ物ではない。沖縄ではアメリカ文化が浸透しており、また一般家庭でサターアンダギーは手軽なおやつである。ドーナツは高齢の方や男性にも受け入れられやすいアイテムなのだ。身近なところに商機は転がっている。
- ② 目を引くパッケージ
ドーナツをくわえる2羽のヤンバルクイナのかわいらしいロゴは、どこかレトロで洗練されており人の目を惹き付ける。またこのロゴを包み紙、看板、のぼり等に使用し、人目に多く触れさせインパクトを与えている。特に女性の場合、パッケージデザインが購入の決め手になることは多い。



地元で育った材料達
豆腐屋さんの豆乳は、一般に市販されているものに比べ濃厚。クニガミドーナツと同じロゴを使用したティーバッグを売り出した。手頃な大きさでパッケージのかわいさで、お土産として購入していく人が多い。



からぎ茶
ニッケイという木の葉を乾燥させたお茶。クニガミドーナツと同じロゴを使用したティーバッグを売り出した。手頃な大きさでパッケージのかわいさで、お土産として購入していく人が多い。

問い合わせ

- 宮里菓子店 国頭郡国頭村字辺土名117番地1 ☎0980-41-2392
- カロッテ洋菓子店 国頭郡国頭村字辺土名1508番地 ☎0980-41-5777
- 森のこびと 国頭郡国頭村字宇良534番地1 ☎0980-41-5663
- 国頭村観光物産センターゆいゆい国頭 国頭郡国頭村字奥間1605番地 ☎0980-41-5555

ネットワーキング会員広場

このコーナーでは、ユニークな商品を開発するなど、独自の取り組みでオンラインワンを目指す企業をご紹介したり、沖縄県産業振興公社ネットワーキング会員企業の新商品情報、講演会や懇親会の企画などを発信していきます。

http://ovs.jp/

元気企業紹介 古民家スパ「たあばく家」 地域の人々と、島全体をスパに 島すば構想

サングワチャー（旧暦の3月節句）で有名な平安座島。幹線道路から入る小道を抜けると、景色は様変わりして昔ながらの家並みが広がっている。この平安座島の集落の一角に、株式会社パシフィック・ホスピタリティー・グループが運営する古民家スパ「たあばく家」がある。地域の特色を活かした滞在型スパをつくるため、県内各地を探し見つけた古民家は築60年余。これを全くりフォームせずに使っているそうだ。

「たあばく家」の他、伊計島、浜比嘉島のホテルと提携したスパ、琉球を開いた神々が住んだといわれる島々のパワースポットを巡るツアーや、家族連れでも楽しめる沖縄の伝統のお菓子作りやタコ取り体験など、島の特性を活かした様々なメニューを提供している。昔ながらの沖縄の情景と、島々の魅力をメニューに組み込むことで、お客様に心と身体のリラクゼーションを提供したいという願いからだ。

「おばあちゃんの家に来たようだ」と、トリートメントの後もゆっくりくつろいでお帰りになるお客様が多いんですよ。」と話するのは、同社チーフの山城千恵子さん。「うむいセラピスト」として、トリートメントを施すだけではなく、お客様に心の底からリラックスしてもらええる環境づくりの担い手、いわば「沖縄の温かいお母さん」的な存在だ。

豊かな自然とそこに暮らす人々が一体となった環境があったからこそ「島すば」。だから山城さんたちは、島の行事にも積極的に参加している。旧正月には年頭祈願、旧3月3日には三月遊び、旧5月4日のユッカヌヒにちなんだハーリー。行事に参加し、地域の人々に文化を教えることも、セラピスト自身が島の暮らしを愛し、そこに溶け込みたいと活動している。そんなセラピストたちの心がもたらすリラクゼーションこそ、「島すば」の魅力なのだろう。



古民家で味わう癒しのマッサージトリートメント



チーフ/うむいセラピスト 山城千恵子さん
(株)パシフィック・ホスピタリティー・グループ
島すばインフォメーションセンター
☎098-977-8911 <http://www.shimaspa.com/>

公社ネットワーキング会員 PRESS RELEASE

沖縄らしさを全面に ホテルに「快眠ルーム」を開発

沖縄素材を使った寝具を開発するファーストラインでは、ホテルの客室をモデルルームに仕立て、宿泊客に快眠を体験してもらう取り組みを行っています。月桃葉の乾燥チップを混ぜた枕や、紅型をあしらった寝具を配置し、お客様が気に入れば購入していただくこともできます。7月にリニューアルオープンしたショールームでは眠りに関する数多くの商品を取り揃えて、快眠を追求した店舗作りを行っています。



(株)First Line
☎098-988-8231 (天久)
<http://www.ryukyuumou.jp>

“地域に密着した清涼飲料” コンテストで2品が金賞受賞

千葉の幕張メッセで6月に開催された「ご当地ドリンクアワード 2011」において、沖縄バヤリースの「南果搾りシークワサー 刻み果皮入り」と「南果搾りアセロラ あらごし搾り」が“地域に密着した清涼飲料”として金賞を受賞。沖縄の南部地域で収穫された果実を原料に、シークワサーの爽やかな風味やアセロラのあらごしピューレの素材感を生かした飲み心地が楽しめるドリンクに仕上がりました。



(株)沖縄バヤリース
☎098-945-3381 (大城)
<http://www.okinawa-bireleys.co.jp>

「とんがりおむすび器 なんでもGOO!」近日発売!

有限会社ユーズでは、天むすや鬼さんおむすびが簡単にできる「とんがりおむすび器なんでもGOO!」を発売します。その名の通り、なんでもおにぎりの具にできるスグレモノで、海老天の天むすやポークランチョンミート・玉子焼き等を鬼のツノに見立てた鬼さんおにぎりが簡単にできます。見た目も楽しく、小さいお子様でも食べやすいので、朝食やお弁当などで是非ご活用ください。使用例ブログで紹介中。



(有)ユーズ
☎098-896-2004 (上江洲)
<http://omusubi.ti-da.net/>

(財) 沖縄県産業振興公社では、さらなる企業支援の拡充・強化を目指し、ネットワーク会員を募集しています。会員特典として会員間の交流、有料セミナー・公社ホームページ・バナー広告・メールマガジンへの掲載料金の割引、ビジネス関連ビデオの貸し出しなど様々な特典メニューをご用意しております。詳しくは <http://okinawa-ric.jp/useful/4380.php> まで。 担当：外間、砂川

クラウド・コンピューティングとは何か

クラウド・コンピューティング技術（以下、クラウド）について説明したいと思います。クラウドとは、サービスを提供する事業者のデータセンターに設置されたシステム基盤上のアプリケーションを自社の業務に合わせて自由にカスタマイズして利用することができるシステムの利用方法です。（図1）インターネットに繋がるデバイスさえあれば、すぐに利用開始できます。資産としてシステムを持つのではなく、サービスとしてシステムを利用する考え方は、クラウドを利用する一番のメリットは、費用対効果です。従来、自社構築の業務システムは、非常に高価なものでした。クラウドでは、ハードウェアやソフトウェアの購入、管理から解放され、利用した分だけ料金を支払うだけになります。アップグレードや更新は自動的に行われ、規模の拡大・縮小も自由です。

ホームページやブログ、電子メール等のインターネット技術は、すでにご活用だと思えます。クラウドは、企業がインターネットを活用する更なる手段です。インターネット上に、安定した、高機能・高セキュリティな貴社の業務システムを低価格で構築し、顧客情報や売上情報等の管理・共有を行うことができます。貴社のIT戦略実現の手段として、ぜひクラウド活用をご検討ください。

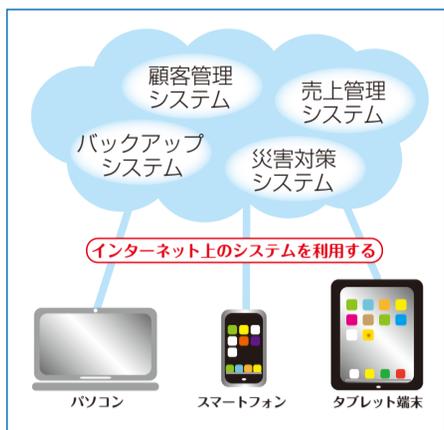


図1.クラウド概念図



寺田 克彦

株式会社テラ・ウェブクリエイト
代表取締役社長 ☎098(951)0135
http://www.tera-web.jp/
沖縄県産業振興公社登録専門家。
セールスフォースドットコム認定コンサルタント。
http://www.facebook.com/katsuhiko.terada

マーケティングコラム

2011年3月に発生した東日本大震災は、地震・津波・原発事故という、今まで日本人が経験したことのない震災が大規模で起こり、大きな傷跡を残しました。その傷跡は、生活者の考え方、そして生き方にも大きな影響を与えています。

それを証明している調査結果があります。博報堂総合研究所が発表している「震災前

後の生活者変化調査」です。ここでは、普段の生活行動の中で力を入れた行動を聞いてみました。最も多かった回答が「家族との交流」で69.1%（前年差+9.4%）でした。また、別の調査では「家族や友人・仲間を守ったり、助けたい」という気持ちが震災前より強まっている（61.2%）、家族の絆や身近な人々との絆をい

ままで以上に重要にしよ

日々雑感

千思万考「震災による家族帰帰傾向」

うと思う（63.9%）という結果が出ています。

つまり人々は「当たり前」の生活は「当たり前」ではないことに気づき、当たり前前に側にいる家族というものに対してもう一度意識を向け、「家族帰帰」の傾向が強まっているといえます。そのことを意識したコミュニケーション活動が、ビジネスにおいても大切なポイントになるのではないのでしょうか。

友利至伯

株式会社アドスタッフ博報堂
マーケティングソリューション局 R&D 推進部
アソシエイト マーケティングプランナー

1980年浦添生まれ。05~08年までオクラホマ州立セントラルオクラホマ大学にてマーケティングを修学後、同社へ入社。アカウント局を経て、マーケティングソリューション局へ配属。現在は官公庁、民間企業のリサーチ及びプランニング業務に従事。

使いこむほどに愛着のわく 本革手帳カバー



お問い合わせ
紅型デザイン工房
紅琉 Binryu
浦添市港川112-9-10
☎098-995-6656
http://binryu.com/

紅型をもっとふだん使いに、という思いから、心をこめた紅型小物を一つひとつ手作りで作っているのが、紅琉。幸せのモチーフがデザインにこめられた紅型を素材に、持つ人、着る人が自然と笑顔になれるアイテムを提供している。

写真は、ビジネスツール KARNATIO シリーズの中から、100%沖縄県産、100%ハンドメイドの手帳カバー。手持ちの手帳にあわせてオーダーメイドで作ってくれる。素材は、傷が目立ちにくいソフトレザーを使用、柔らかな革に華やかな本染めの紅型を組み合わせている。製品に名前や日付が打刻できるので、プレゼントにも最適。

他にも、名刺入れや携帯ホルダー、ファイルケースなどのアイテムを取り揃え、ビジネスシーンで上品に沖縄らしさをPRできそうです。

うりひゃ〜!! ウチナ〜むん

ちんすこう屋さんが作った、 沖縄素材の自家製アイス!



お問い合わせ
まんまるちんすこう
焼きたて工房 国際通り店
那覇市牧志3-1-1
☎098-864-0844
http://www.rakuten.co.jp/plus/

「アイスにちんすこうを入れて食べると美味しい!」という、お客様の声がかきつけられました「ちんすこう屋さん」の自家製アイス。県産の牛乳と生クリームを使った、さっぱりとした中にも牛乳のコクが活きたミルクアイスに、アイス用として特別に焼いた「ちんすこうクラランチ」のかりかりとした食感が、楽しくて、美味しいと評判。

ちんすこう入りアイスは、ミルク、黒糖チョコ、黒糖キャラメルアイスの3種類。他にも、県産果実で作った南国フルーツのミックスアイスや直営「まんまる農園」でとれたパインやタンカンのアイスなど、全6種類のフレーバーが勢揃い。

南城市には直営カフェもあり、海を眺めながら、スイーツとコーヒーが楽しめる。

The Support Fund For OKINAWAN Industry

OKINAWA型 産業応援ファンド事業 報告会

沖縄の地域資源を活かした新事業、そして、沖縄の重点産業（健康・バイオ、観光等）に関わる新商品開発等をサポートする「OKINAWA型産業応援ファンド事業」です。

そのアイデアがオキナワブランドに。

沖縄県産業振興公社が実施する「OKINAWA型産業応援ファンド事業」の平成22年度報告会が、5月20日開催された。本事業は、沖縄の様々な地域資源を活用した新製品の商品化や新規事業の芽だしを支援することにも、沖縄の強みを生かした健康・バイオ、観光分野等を重点にした県内中小企業の事業化促進を支援し、地域経済の活性化と産業・雇用の拡大に繋げることを目的としている。

「変形性膝関節症用装具のオールプラスチック量産化プラン」のテーマで報告した株式会社佐喜眞義肢は、本事業の支援により、当社製品のCB（センター・ブリッジ）ブレースの金属部分を、カーボン素材を組み入れたプラスチックに代替することで軽量化に成功。さらに金型製作による量産化を図っている。CBブレースは、膝をぴったりと固定し支えることで膝の負担を軽くし、歩行時の痛みを軽減するというもの。痛みが軽減されることで、積極的に歩行するようになり、筋力の回復が促進される効果もあるという。

「5種類の穀物を使った機能性豊かな薬膳味噌製造販売」のテーマで報告したのは、崎山酒造。泡盛メーカーとして長年培った醸造技術により、玄米、はと麦、黒胡麻など5種類の穀物を使った無添加、天然醸造の味噌を開発し、昨年12月に販売を開始。本年春には、東京の大手百貨店内の専門店で一週間にわたり試食販売を行った。

同社では、今後、積極的な販路開拓を行うとともに、販売箇所の限定によるブランド化とターゲットの絞り込みにあわせて価格設定を行い、沖縄ブランドとして育てていく方針だ。

久米島町観光協会の報告テーマは、「食物アレルギー対応基盤を活用した新旅行商品造成プラン」。食物アレルギーの子どもを持つ家族が、安心して旅行を楽しめるよう、アレルギー対応食を島内3ホテルで提供するとともに、食物アレルギーの基礎知識を持つ「久米島コンシェルジュ」を専門スタッフとして配置。さらに、医療機関や救急隊員との連携で救急医療体制を整備している。

今後の課題としては、子どもの食物アレルギーにより旅行をあきらめている家庭に、どうやって情報を伝えるかということ。同協会では、交流のある病院やク



各社の成果と課題についての発表を、真剣に聞き入る参加者の皆さん



事業展開について各社が報告



平成22年度事例集

リニックへの資料配布や、保護者の団体に対するモニターツアーの案内、団体旅行プランの開発などを検討している。

なお、平成22年度採択企業の取り組みについては、「OKINAWA型産業応援ファンド事業 平成22年度事例集」にまとめられており、沖縄県産業振興公社で入手できる他、同HPでも見ることが出来る。

今回の成果報告について採択審査会委員のうち2委員から、講評を伺った。

商品マーケティングが専門の委員は、採択企業に対し「県経済のリーディング役として活躍してほしい」とエールを送る一方で、今後の課題として、「思い込みではなくきちんと市場の状況を把握して商品に反映すべき」と指摘。また、流通および総合コンサルティングが専門の委員は、「採択企業の活動が想像以上にダイナミックで参考になった」と話す一方で、市場や顧客を見据えた事業化努力の必要性や、流通マージンを踏まえた価格設定や競合商品との整合性など、市場を注意深く見ることの必要性を指摘していた。

なお、本年度は、新商品開発等支援事業および地域資源活用支援事業の計15企業が支援対象として採択されている。

平成22年度採択企業

新商品開発等支援事業

■(株)トイファクトリー	ルーフソーラーと断熱窓によるECO車両開発プラン
■(株)石垣の塩	“石垣の塩”を活用した「与那国のかつおだし」開発事業
■(株)スペースチャイナ	中国富裕層向けのコンシェルジュ及び付随業務の開発
■(株)佐喜眞義肢	変形性膝関節症用装具のオールプラスチック量産化プラン

地域資源活用支援事業

■崎山酒造	5種類の穀物を使った機能性豊かな薬膳味噌製造販売
-------	--------------------------

平成23年度採択企業

新商品開発等支援事業

■OMJP(株)	CCFL(冷陰極管)を利用した照明器具の開発・製造・販売
■(株)先端医療開発	琉球のめぐみによる機能性食品「琉球シリーズ」の新商品開発
■(株)タース	タース無機質不燃塗料の開発・製造販売
■イトサン(株)	もずくを活用した低カロリーラーメンの常温流通プラン
■(有)渡具知	沖縄県産ノニ果実を活用した商品の一貫した生産販売体制プラン

地域資源活用支援事業

■(株)アセローラフレッシュ	アセローラを活用した地域色豊かな商品開発プラン
■(有)金武酒造	全国初!「金武の田芋焼酎」開発プロジェクト事業
■チューイチョコレート(株)	県産亜熱帯フルーツを活用した全国流通可能なタルト類の開発・販売
■ISLAND FOODS TIIDA	島育ちビーフを活用した地産地消、新たな地域特産品発掘プラン
■丸吉塩せんべい屋	島米でつくるヘルシーライススナック・インスタントジュース
■紅琉 Binryu	紅型を暮らしにインスパイア「琉球モダンリビング」
■(有)勝山シークワサー	シークワサージュース残渣種子からの機能性化粧品素材開発
■あーびゃーんもーゆ琉球月桃	国頭村産ブランドの開発
■(株)丸海きあら	特許製法による沖縄生まれ沖縄育ちの月桃コスメの商品開発プラン
■(有)月桃花	ゴーヤーを活用した県産高付加価値商品の企画販売

できたん照屋の

商品開発

ちやむぢも話

20

「ハードS&S」 「ソフトS&S」

あ なたはS？私はM...という流
行りの会話をしたのであ
りません。経営戦略に関する話です。
「S」とは企業の経営資源としての「強
み (Strength)」のことだと、本紙の読
者ならおわかりでしょう。

このSを、「ハードのS」と「ソフトの
S」に分けて考えてみる、もしくは、「ソ
フトのS」という概念を結合してみ
ると「S&S」をおすすめしたいのです。

高い技術力や特許、広い販売網や顧
客リスト、希少で優れた素材を有利に
調達できる、長年の実績に支えられた
ブランド力...等々、短期間では獲得で
きないような強固な資源を「ハードの
S」と呼び、そしてハードのSの活かし
方を「ソフトのS」として考えてみま
す。端的に言うなら、「ハードのSを誰か
のために役立てる方法を知っている、
それを実行できる」ということがソフ
トのSを持つということなのです。「役立て
る」という発想をするときには同時に
「誰々さんのために」と、相手(お客様)
を思う気持ちが必要なのははずです。

また、役に立つという点には、このこ
うメリットを提供するという具体的
が、自らも要求されてきます。

大企業であれば膨大な消費者デー
タをコンピュータで解析して商品戦
略に資することもできるでしょうが、
中小零細事業者はそうもいきません。
具体的に役に立ち言はれる商品・サー
ビスを考案するにはセンスが必要で

す。そのセンスは独りよがりで磨ける
ものではありません。大切なお客様と
の関係をとおして磨かれていく、固有
な、そして常に進行形の強みです。

手前みそを例にとりますが、私の場
合は食品化学や栄養化学、生化学、応
用微生物学などの知識を習得して社
会にでました。このハードのSの活か
し方としては学問を究めていくとい
う方向もあつたでしょう。しかし、幾つか
の職を経た結果、地元企業の経営者や
開発者の技術戦略の実現を専門的な
側面からサポートしたい、そういうソ
フトのSを私は選び取りました。その
選択を背後から押すものこそ理念や
願いでした。そして平成11年の開業以
来、様々な企業の経営課題や商品開発
に触れさせていただいた、その経験と
情報の蓄積は、私の新たなハードのS
となり、これをまたソフトのSとして役
立てることをいつも意識しています。

誰かのために役に立つとする明
快な戦略、ドラッカー先生やナポレオ
ン・ヒル博士の言葉にも聞かれますが、
私にそれを最初に教えてくれたのは高
校の生物の授業、「生態系の章でした。

文・照屋隆司(てるやりゆうじ)
(有)開発屋できたん代表取締役。
食品・生物資源産業分野の技術系コ
ンサルタント。酒造会社・県農業試験
場・(株)TTCを経て99年より現職。
(財)沖縄県産業振興公社専門コー
ディネーターを兼任。(独)国立健康栄
養研究所認定NR。(社)日本産業カ
ウンセラー協会資格登録・産業カウ
ンセラー。カウンセリングルーム「キャリア
オアシス楠」主宰。
<http://k-dikitang.p-kit.com/>



OVSIERES

経営革新新支援制度

経営革新にチャレンジしませんか！

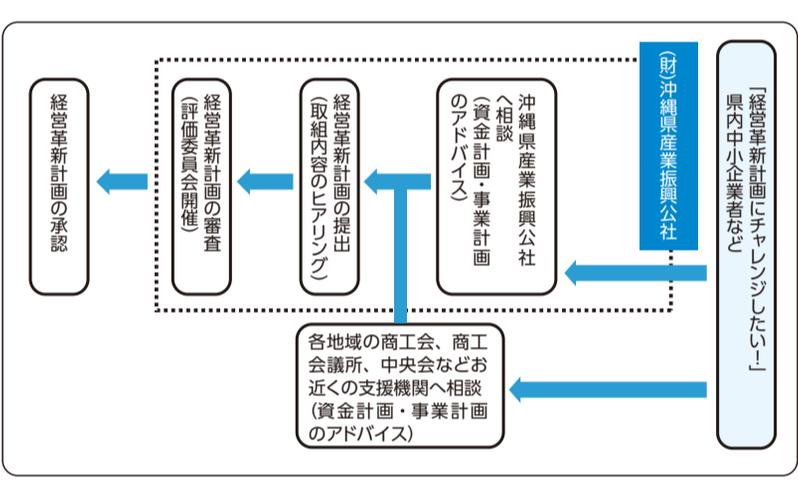
沖縄県産業振興公社では、中小企業の
皆様の経営革新への取り組み(新商品の
開発や生産、新たなサービスの提供、新
しい生産方式の導入など)を促進するた
め、経営革新計画の認定に向けた支援、
計画申請の受付、審査を行っています。

【経営革新支援制度とは】

新商品の開発や新たなサービスの提供、
新分野への進出など経営革新(その企業
にとって新たな取り組み)にチャレンジ
する中小企業の皆様の計画を承認し支援
していきます。

承認を受けると、補助金や低利融資、
設備投資減税、信用保険の特例制度など
様々な支援策を受けることが出来ます。

【承認までの流れ】



【お問い合わせ先】
(財)沖縄県産業振興公社 経営支援課
☎098(059)6237
担当 永野・竹内・外間

沖縄県健康産業協議会 総会報告

沖縄県健康産業協議会(下地清吉会
長・加盟63社)は6月17日、平成23年度
の定期総会を開催しました。総会では、
前年度の事業報告会や収支決算報告およ
び今年度の事業計画・収支予算案が提案
され、満場一致で承認されました。健康
産業と関連が深いGMP認証取得事業や
シークワサー自主基準に関する報告も
され、出席者の関心を集めました。

また、総会に先立って「どう伝える？
健康食品の表示とコミュニケーション」
と題して照屋隆司氏による特別セミナー
が行われ、健康食品の表示で日頃苦労し
ている会員企業の担当者等が熱心に聞き
入っていました。



- ①商品のクオリティをいかに消費者に伝えるかという説明に熱心に聞き入る会員の皆さん
- ②懇親会で情報交換や近況報告などで親睦を深める会員の皆さん
- ③産官学連携事業等で多くの協議会加盟企業の発展に貢献された岡山理科大学 濱田博喜教授へ下地会長から感謝状の贈呈を行った

タブロイド判
沖縄ベンチャースタジオ 28号
2011年7月15日発行
発行:(財)沖縄県産業振興公社
☎098-859-6237
<http://ovs.jp>
編集:光文堂コミュニケーションズ(株)
広告:(株)アドスタッフ博報堂
TEL.098-862-4459
e-mail:k-kakazu@adsta.co.jp
同紙についてのご意見・ご感想は
info@ovs.jpまで
「情報紙について」の件名を入れて送信してください。